

# 湘南学園だより



発行：湘南学園だより編集部



## CONTENTS

|                               |                          |    |
|-------------------------------|--------------------------|----|
| 卒業生の皆さんへ                      | 副理事長 近藤えり子               | 2  |
| 不自由な環境で暮らす子どもたち 求められる大人の支援と助言 | 学園長 山田明彦                 | 3  |
| 不変と変化                         | P T A会長 大津誠二             | 4  |
| 食育を文化に                        | 特定非営利活動法人湘南食育ラボ 理事長 小田拓也 | 4  |
| 変化の時代における湘南学園                 | 同窓会会長 箕元則                | 5  |
| 応援する気持ち                       | 後援会会長 田辺真理               | 5  |
| 全学保護者の皆様へ「食育推進費」ご協力をお願い       | 理事長 内海直人                 | 6  |
|                               | 学園長 山田明彦                 |    |
| コロナ禍で主体的に行動する子ども              | 幼稚園保育主任 箕輪ゆか             | 8  |
| コロナ禍における小学校の教育                | 小学校教頭 林田英一郎              | 9  |
| 皆が集える学び舎の価値                   | 中学校高等学校校長 伊藤真哉           | 10 |
| 2020年度「松ぼっくり基金」のご報告           | 理事長 内海直人                 | 11 |
|                               | 学園長 山田明彦                 |    |
| 学校法人からのご報告                    |                          | 12 |



## 卒業生の皆さんへ

副理事長 近 藤 えり子

ご卒業おめでとうございます。

今、みなさんは夢へ向かって不安と希望の交差する岐路に立っています。

しかし、コロナ禍を乗り越えた、はじめての卒業生でもあるのです。

これからの人生が幸せに満ちたものであることを心よりお祈り申し上げます。

湘南学園は、湘南鵠沼に移り住み、恵まれた自然の中でのびのびとした個性尊重の自



由教育を子弟に与えたいという、父母の愛情が要となって、1933（昭和8）年に設立されました。

湘南学園には特定のオーナーは居りません。父母保護者と子弟の教育を預かる教職員が協力して経営すると言う、誠に民主的な寄付行為に基づく私立学校です。理事長、理事はPTAが母体となり保護者の中から選挙をし、評議員を経て選出、学園長・PTA会長が加わった理事会が学校運営に当たります。したがって湘南学園PTAは他校とは異なり重要な学園の構成組織なのです。

創立以来、子どもたちの個性を尊重した自主性を育む自由な教育により、気品高く明朗な将来社会に役立つ人間を大きく育てるという建学の精神を守り続けてきました。現在は、100周年に向け、湘

南学園の未来構想に着手すると同時に、園児、児童、生徒の食と健康を考える取り組みも行っております。

昨年3月より、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全てのパートが休校となりました。

学園生活では、マスクの着用・手洗い、手指消毒の徹底・ソーシャルディスタンスの確保・ふれあいや大声での会話を控えるなど、皆さんにも我慢を強いることがたくさんありました。

授業でも、学習内容の規制や話し合い活動が出来ないなど多くの支障が出てしまい、また、皆さまが楽しみにしていた多くの行事が中止や延期となつてしまいました。

保護者の皆様の中にも、新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックが発生している中で、急な環境の変化や世の中のもの々しい雰囲気によって強いストレスを感じ、不安定になつ

たお子さまとどう接すれば良いのか、悩んでいらつしやる方も多いのではないのでしょうか。

しかし、学園生には、自分で考える力を持ち、何事にも、しなやかに対応できる力が既に備わっています。生きていく色々な場面でも、どうしたら良いかという思考が出来る経験や体験を数多くしています。

正しく恐れるというコロナ禍の経験で、自ら学び、成長しています。子どもたちの中には、「自分が大人になったら医療従事者になりたい。彼らは今、人々の為に自分の命をかけ頑張っているから」といった思いが自然に生まれてくるかも知れません。発達段階に応じて、横断的、統合的に、アフターコロナ時代には子どもにとつてどんな学びが必要なのかという視点を持つことも大切だと感じております。また、湘南学園が大切にしている中に、多様性への気付きと尊重の姿勢の育成というものがあります。多様な他者

NICE IDEA

の存在を認識し、多様性を尊重できてこそ、本当の意味で協力し合えるようになります。

この「協力し合える能力」こそが、これからのコロナ対応や地球規模で持続可能性を見据えながら生きていかねばならない今の子どもたちが、身に付けるべき最も重要な能力のひとつなのかも知れません。

卒業生の皆さんに、「自分の力を信じて努力する」ことの大切さを再度、見つめ直して頂き、「人はだれもが輝きを秘めた原石」であり、自分の可能性を信じ、自分がイメージしている夢に近づくまで諦めず行動し続けてほしいものです。そして、次のステージでも、きつと皆さんを支えてくれるはずですよ。

しなやかな心で希望を持ち続けることが、コロナ禍をものとしらない明るい未来を拓くことになるからです。

湘南学園生であったことに誇りを持って活躍し、母校に帰って来てくださる日まで、温かみのある湘南学園をつくりあげたいと思っております。

AFTER COVID-19





## 不自由な環境で暮らす子どもたち 求められる大人の支援と助言

学園長 山田 明彦

### コロナ禍にまけずに 子どもの学びと体験を 保障する努力

2020年度は、新型コロナウイルス関連の対策にずっと追われる受難の年度でした。

長期休校や段階的登校の期間を経て、通常登校後も感染予防対策を続けました。学内で感染の事実があれば、各パートおよび全学で最善の対応を採って対応してきました。

それでも現場の先生方は、学園生の学びや体験を精いっぱい保障しようと懸命の取り組みを続けてきました。子どもたちにとって「今しか出来ないこと」があるから、全校でまたその学年でこそ取り組ませたい学習課題や行事体験を大事にしようと、実施の方向を探りました。

体育系の学校行事、表現主体の学校行事、総合学習や校外・宿泊行事、修学旅行・研修旅行など、幼小中高を通して教職員が子どもたちの「今

を大切に、実りある学園生活を送らせてあげたいとの一念を持って、指導・支援と諸準備を重ねてきたのです。



遠隔授業やHR指導、総合学習や部活連絡、教職員と学園生の会議など、オンラインの取り組みも広範な分野で進展しました。スケジュールの変更に応じて、カフェテリアではラボの方々が全学の出食と食育、様々なイベントの支援でご尽力くださり、小学校アフタースクールは新しいプログラムも旺盛に展開され、児童の探究心を育んでくださいました。

教育現場では、1つ1つの場面で「一番重要な学びや体験は何か」を改めて考察し、どうこの壁を乗り越えるべきか、感染対策はどうするかと学園生にも提起し、考えてもらいました。子どもたちの意見やアイデア、新たな意欲を引き出そうとしたのです。

各パートの教員と事務用務のスタッフがスクラムを組み、年間を通して新たな活動を多方面からサポートし合い、教育実践の地平を広げた年度でもあったと思います。

### 子どもをめぐる 状況を考察し 家庭と学校そろって 配慮や支援を

コロナ禍がいつまで続くかは不明であり、子どもも大人もストレスや不安が累積しています。特に子どもは今まで当たり前だったことが一様に出来なくなり、いつも我慢の毎日を強いられています。友



達との自由なお喋りやじゃれ合いも、外出や会食もみな我慢です。世間の街や会場はリスクがある場所とされ、自宅にこもるインドアの生活が奨励されています。

マスクには慣れてもずっと「3密を避ける」「個人間距離を守る」ことは過酷なことです。スマホやSNSにどっぷり浸かる生活を自制するには、相当な決意の持続が必要でしょう。

瞬時に必要な情報を得られる検索の利便や、離れていても対話できるオンラインの利便は、上手に活用すべきです。同時にまず家庭では何よりも、わが子としっかり向き合い心を通わせ、同じ目線で子どもとの話を聞いてあげる親子関係が大切でしょう。

教員も「気づく力」が決定

的に重要です。周辺の教員達が生徒達のことを話し合うと、実態をつかむ上で複眼的な観察や教員間のフォローが大事なことがよくわかります。学校での様子から悩みや変化に気づき、対話をして気持ちよくみとり助言に努めることが求められます。登校できて不安や憂鬱をかかえて苦しむ子どもは少なくないのです。

改めて家庭でも学校でも対面でしっかりと関わる場面を大事にして、子どものケア、子どもたちのフォローに努めることが求められます。自主的な努力や地道な練習をいつも励ましなが、世の中に広く目を向けられる紹介にも努めて、大人達の生きる姿を伝え、将来への希望や意欲を育んでいけるように心がけていきたいです。





## 不変と変化

PTA会長 大津 誠 二

新型コロナウイルスの世界的拡大で、誰もがあらゆる事に不自由を感じております。感染すると命の危険にも晒され、不安ばかりが募ります。思考を整理してみようと思い、列記してみました。縦軸は事柄、横軸は時間軸です。

|           | 過去       | 現在    | 未来    |
|-----------|----------|-------|-------|
| 家族        | 親、兄弟へ感謝  | 〃     | 〃     |
| 生活        | 規則正しく    | 〃     | 〃     |
| 食事        | バランスよく   | 〃     | 〃     |
| 学校        | 勉強・部活・青春 | 〃     | 〃     |
| 社会        | 労働優先     | 労働と生活 | 生活と労働 |
| 人と人       | 思いやり     | 〃     | 〃     |
| コミュニケーション | 直接的      | 直接と間接 | 間接と直接 |
| 人生        | 夢と希望を持つ  | 〃     | 〃     |

こんな所でしようか？これで見ると普遍は未来に向けて生きる基本、変化はその実現の方法が科学的に進歩する事のみに感じます。不安ばかりが先立つと私を含め、こんな基本的な生き方を見失いがちです。今は既存の事柄、考えを確りと見つめ直す時期なのかも知れません。

PTAは学園が抱える不安、等を少しでも払拭できる様に最善を考慮し学園の為に尽力して参ります。

誰しもが大変だからこそ助け合い共に未来に向けて邁進して参りましょう。

## 食育を文化に

特定非営利活動法人湘南食育ラボ 理事長 小田 拓也

特定非営利活動法人湘南食育ラボは、湘南学園八十周年記念事業の折に生まれカフエテリアを「食育」の理念のもとに運営すべく設立されました。東日本大震災は各地に甚大な被害をもたらしましたが、その折、当時の湘南学園PTAは地元の方々、学園生に向けて炊き出しを行い「温かい普通の食事」の大切さが刻まれました。こうした原体験から、新たに誕生するカフエテリアは、「学生食堂」の役割に留まらず、生涯を健康に送るための教育の意を含め「食育」の理念の元に活動を開始することとなりました。

### ●食の環境と課題

カフエテリアの調理に従事する、スタッフの多くは湘南学園の保護者によるものであることも、湘南学園の風土やPTAの文化が背景にあると思います。

現代の食は、利便性に富みスーパーには様々な食品があふれ、中食では色々な種類の調理済みの食の選択が可能な社会になりました。その一方で、食品添加物や、アレルギー、社会の多様化などの環境は、健康な生活への問題を投げかけています。湘南食育ラボは多くの方々のご

### ●食育を文化に

支援と、「食育」に向けた試行錯誤の積み重ねとともに、こうした環境を意識し取り組んできました。2013年3月に「日本人の伝統的食文化」がユネスコの世界文化遺産に登録され注目が高まりましたが、その一方で和食文化はその形を失いつつある現実があります。

今後の食育を進める上で、食を「文化」として捉え継承することが、たいへん大きな意味を持ち、質を高めることにつながると考えております。日本の食文化である行事食、ハレの日の食に注目し、楽しんでいただきながら「食」に親しむ機会を設けてまいります。新年度より、新たに湘南学園との協働の形での取り組みがスタートいたしますが、「食育文化」が、園児、児童、生徒皆さんの健康と、学園の一層の発展につながることを心より望んでいます。

カフエテリアの食の提供とともに、今後に向けて健康の大切さを支えるための啓発、子育ての下支えなどキメの細かい「食育」につなげるために取り組んでまいります。





# 変化の時代における湘南学園



同窓会会長 筧 元 則

21世紀最初の20年が終わり、コロナで多くの問題、色々な弱点があぶりだされました。改めて言うまでもありませんが、世の中は益々変化している中、昨年はコロナ禍により、これまで経験したことのない状況下におかれ生活スタイルも一気に変化しました。変化とはAI(人工知能)の導入、少子高齢化など様々な社会変化が、「新常态」「ニューノーマル」と言われる様に変化してきており「デジタル化」「リモート化」「ペーパレス化」「働き方改革」等々へ発展しており、変化をとらえ、変化を生かせと社会人の時に言われてきたことを思い出します。新しい生活様式が広がり、オンライン授業、オンラインミーティング、オンライン学園祭等々色々と変化しているのが現状です。政府はデジタル活用の能力を備えた小中高校の教員育成に乗り出す様です。授業でのICT(情報通信技術)活用方法を各教科で示すとともに、本年度からICT関連企業のOBらを学校に派遣される予定です。



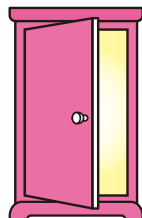
変化に対応するスピードが重要であり、私立一貫教育の湘南学園もニューノーマル時代に遅れない為に、ユニークな湘南学園の経営スタイルに新たなブラッシュアップが大変重要だと思います。

ブランディング委員会の発足から、全学広報委員会への戦略を構築するに当たり、創立90周年、100周年が見えてくる時期です。

学校法人は変化に対して、私の経験と比較してみても、慎重に考える傾向が強い様に思えます。この令和の変化が世の中に相当大きな衝撃を与えたと思います。同窓会におきまして、今のままの常識的なものではないけない、コロナ禍後の新しい時代の同窓会運営を話し合っています。新しい時代に対応能力のある若い方達に今後のリーダーシップを発揮していただき、この変化の多い時代を乗り切っていくことが大切なことだと思っています。

先日の日経新聞に立命館大学の超多才能人材育成キャンペーンが始動するとありました。2024年かつてない挑戦をはじめ、それは超多才能人材を輩出することだ。「高度な武器を複数もつ人材」を育て生み出す未来への取り組みとあります。

湘南学園もかつての栄光ある「芸術学部」の今日版を期待したいものです。



皆様と共に2021年を再起動の年として、湘南学園に希望にあふれる一年がおとずれます様に願っています。

# 応援する気持ち

後援会会長 田 辺 真理



去年の今頃、新型コロナウイルスがこんなに猛威を振るって長期化し、世の中が一変してしまい、私達の生活様式も激変してしまうとはゆめゆめ思ってはおりませんでした。

学園の子ども達も不自由な中、さぞかし大変な思いをして通園・通学されていることに、胸が痛みます。色んな夢や希望が、実現できなかった事がこの一年間に数々あったのだろうと。

後援会はいつもそんな子ども達の夢や希望の応援をしたいと考えているのですが、今年度は後援会が関わるイベント(PTAバザー・英語力向上支援・ヤングアメリカンズ等)は中止になり、なかなか思うような応援はできませんでした。

そんな中、年が明けて中高の有志生徒が進めている花火プロジェクトのお話を、伊藤中高校長からお聞きしました。早速、後援会役員会に報告し、花火プロジェクトの内容を聞き、応援できることはしようと、役員全員ワクワクする思いでおりました。が、子ども達から詳細を聞く前に、神奈川県にも一月七日緊急事態宣言が出て、医療・保健所のひつ迫状況に鑑み、学園中高も通常登校から分散登校、テレスタディ導入になり、残念なことにプロジェクトは計画進行断念となったそうです。

あくまで憶測ですが、花火をあげて学園の子ども達だけでなく、地域の医療従事者の方たち、みんなを元気づけ、

勇気づけたいという思いは伝わり、その発想は凄くステキだと思いました。

とかく、これはいけない、無理でしょうと、詳細を聞かないで最初から諦めさせることが多いコロナ禍の現状です。今回、その発想や夢を、直ぐに諦めさせることをしないで、耳を傾けてくださる大人(先生)が居て下さったことに、心から感謝申し上げます。

学園の子ども達は、想像力豊かで、常に魅力ある発想をし、発信力やコミュニケーション能力にも長けています。学園祭や体育祭等のイベントだけでなく、常に想像力を膨らませ、様々な場面でも、夢を語り企画を提案し、プロジェクト化する子ども達が多く居ます。

それは、中高生のみではなく、幼稚園児、小学生も同じです。

そんな時、子ども達の声に耳を傾け、どうしたらその夢が実現するか、一緒に考え子ども達を導いて下さる先生方が、湘南学園にはたくさん居らっしゃいます。私はそんな場面を多く見てきました。仮にその夢や企画が実現しなかったとしても、自分たちの声に耳を傾け共に方向を模索してくれる大人の背中をちゃんと見ています。

こんな世の中だからこそ、私達大人は、子ども達の諦めない心を大切にしたい、夢の実現に向け少しでも応援したいという気持ちでいっばいです。

## 全学保護者の皆様へ

### 「食育推進費」ご協力をお願い

理事長 内海直人  
学園長 山田明彦

#### 湘南学園カフェテリア

開設に託された  
教育の願い

湘南学園のカフェテリアは、昨年に開業7周年を迎えました。

新たに全学の一拠点となったこの施設は、NPO法人「湘南食育ラボ」によって

運営されています。これまでの実績を振り返り、将来へ向けた取り組みのため、学園生保護者の皆様に、次年度から「食育推進費」のご負担についてご協力をいただきたくご案内を申し上げます。

創立80周年記念事業の一環で、広範な特別募金のご支援も受けて「80周年記念館」が完成されたのは2013年



のことで。中心となる「湘南学園カフェテリア」は、全学の学園関係者のための新たな食と憩いのスペースとして開設されました。

その背景には何よりも、育ちざかりの学園生が安心して安全な食材による美味しい献立

に恵まれるようにとの願い、また食の飽和と貧困が混在する現代において、建学の精神に照らして「食育」を本格的に推進していこうとの願いがありました。学園の子どもたちが、食をめぐる学びや体験を重ねて健やかに成長し、将来も豊かな食生活を築いてほしいと考えたのです。

各地の学食の視察や検討を経て独自のNPO法人が立ち上げられ、自力方式による運営が開始されました。在校生・卒業生の保護者や専門家がスタッフに入り、食器・メニューの選定や衛生管理を協議し、授業や総合学習との連携も探りました。当時ユネスコスクールに加盟した中高パート及び全学の教育課題に向き合い、教員と保護者の話し合いが重ねられたことも特筆されます。

#### お弁当の全学提供、 学園全体の憩いの場 年間を通した食育と イベントの支援

中高生のランチ利用から始まりましたが、その後お弁当



の提供も全学に拡げていただき、小学生と幼稚園児のご家庭や教職員も注文できるようになりました。年間で小・幼がカフェテリアを直接利用できる期間も設けられ、「クラスランチ」「学年ランチ」(中高)

「スクールランチ」(小)「カフェテリアランチ」(幼)などが定着しました。卒業間近な高3生を中心に放課後の利用タイムも設けられ、卒業後は同窓生として気軽に利用して旧交を温めてもらえるよう期待されました。まず1月の「成人を祝うつどい」が恒例化され、多数の卒業生が晴れ着姿で参集してくれるようになりました。

「ラボカード」による注文方

式によりスムーズな進行が定着し、個人情報に留意したアレルギー対策も徹底されました。スタッフのお母様たち手づくりの温かいランチを囲んで学園生が談笑する光景が日常となり、総合学習や国際交流でお招きした外来者と交流する場面も増加しました。保護者がPTAのお集まりで懇談される機会も増加しました。

中高を中心に学校説明会やオープンキャンパス、入試期間など募集広報の分野でも年間を通して多大な貢献をいただいています。

幼稚園の季節折々のイベントや小学校の総合学習でも様々なご支援を受け、日本の行事食を数多く体験するな

ど多彩な食育が進展しました。中高家庭科の調理実習を始め教科教育や、地域の生産者とも出会う総合体験学習が深まり、SDGsを視野に入れた





学びが支援されるようになりました。「餅つき」など中高独自の生徒会活動もラボの援助があつてこそ実施できる楽しいイベントです。



### 学園とラボの協働 による食育の創出 子どもたちの健康と 成長第一の出食

昨年度には「サロnde湘南」も発足されました。学園生と保護者、教職員や地域の市民が集つて、「食と健康」をテーマに共に学んで語り合える企画が始まったのです。専門家のレクチャーやシンポジウム、幼少期の保護者を対象とする食生活や栄養のセミナー



など、次年度には再開される予定です。

このように学園とラボの協働により、全学的な食育が創出され発展が図られています。

これは建学の精神を具体化する教育実践の重要な一環です。以上のような幅広い分野のご協力・支援は、もはや学園の教育と運営にとって重要不可欠なインフラの一部となっていることについてご理解いただければ幸いです。

カフェテリアでは、学園生のために加工品を極力使用しない手作り比率の高い調理を進め、安全性や地産地消にこだわる原材料を選択しています。伝統の和食にも



目を向けてもらうなど多彩な献立を用意されています。子どもたちの健康と成長第一の出食を展開されているのです。

一方、通例の学食よりも全般にコスト

高になるため、難しい運営環境も現実にあります。

年間を通して増加した職務内容に比して、低い処遇・報酬面の現状も改善する必要があります。

学食をめぐる経営の困難に直面する学校が増えている情勢も指摘されております。学園とラボの持続可能なパートナーシップをしつかりと構築し、次世代スタッフの後継者を確保することも切実な課題となっています。

### 全学保護者の 皆様へのお願い 「食育推進費」の ご協力について

そこでこの間、学校法人及び湘南食育ラボの間で次年度以後へ向けた協議会を定期的に設けて、話し合いを重ねて

まいりました。設立時の協定書の精神に基づいた協働の関係性を再確認し、新たな業務委託の契約を結ぶことにいたしました。そして「PT共同経営」という学園の理念を受けて、保護者の皆様からも食育推進費のご負担をお願いすることにいたしました。

学校法人からお願いのご連絡になります。次年度から全パートにおいて月額500円の「食育推進費」を、全学保護者の皆様から協賛金の意味合いでご負担していただくことをお願い申し上げます。

お子様のご昼食はお弁当を基本とされるご家庭も多い中



で心苦しい部分もございますが、上述のように、日々の出食と食育推進の業務、学校行事や学園生企画、募集広報や外来対応など広範なラボの貢献を考慮し、将来の教育へ向けた一層の発展への期待や学園全体のブランディングへの寄与も含めて、以上のような措置をとらせていただきたいと思います。

一方で、カフェテリアの出食率アップについて学園・ラボ間の協議を続けるとともに、可能な効率化による経費軽減など自助努力についてもひきつづき追求していただきます。

食育推進費を頂戴すること、年間では6,000円のご負担増となりますが、全学的な食育を確実に発展させ、学園生の健康と成長、幅広い学びと体験に寄与できるように、学園とラボ共々一層の努力をしてまいりますので、何とぞご理解とご協力をお願い申し上げます。



# コロナ禍で主体的に行動する子ども

幼稚園保育主任 箕輪 ゆか



新型コロナウイルスの感染症流行によって、私達の社会や生活は一変し、これまでの当たり前が通用しない世の中へと移り変わっていききました。

そして4月の緊急事態宣言以降、子ども達にとつて以前とは違う園生活を考えなくてはならなくなりました。

保育を進めていく上で、様々なことを教員間で語り合い、議論し「新しい生活様式」は新しい保育に向かうきっかけとなりました。

## \*行事の見直し\*

見直しの中でも、特に行事については「目的は何か」「子どもに経験して欲しいことは何か」を改めて明確にし、できる方法を模索していきました。

例年、幼稚園の行事は幼稚園のリーダーである年長組が「何がしたいのか?」思いや考えを出し合いながら進めています。行事の中で出来る事に限りがあっても、子ども自身が決めた状況でどうしたらいいのか考をえたり気付いたり、行動する事を学ぶ機会にしようとして教員間で共有しました。

## \*年長児子ども達の話し合い\*

「らんらんマにマにらんんど(運動会)に向けて」

らんらんこにこらんらんに向けては「自分達のことは自分たちで」という思いを持っている子ども達が、約1ヶ月かけてじっくり話し合いを重ね、取り組んでいきました。

まずは感染予防策が話題に。「ソーシャルディスタンスだね」「3密を守らないとね」「消毒はどうする?」という言葉が自然に出てきました。例年アリーナで行っていましたが、保育者が「アリーナは3密の中の密閉になってしまいうんだけど」と言う「じゃ外でやればいいんじゃない」「幼稚園の園庭でやるのは?」「狭くない?」「じゃあ小学校のグラウンドっていうのは?」「それいいね」と子ども達。そこで今回は小学校グラウンドで行うことにしました。

次にどんな種目をやりたいのか話し合いました。自分の思いを伝えたり、友達のを受け止めたり、時にはぶつかったり、葛藤しながら、時

間をかけて納得いくまで話し合い、「ダンス」「クラス対抗リレー」の2種目になりました。

「今回のらんらんこにこらんらんどはお家の人にお手伝いをお願いできないので、先生達準備や片付けが大変なの。」と言うと「それなら僕達がやるよ!!」と子ども達。「えー本当に出来るの?」と聞くと「僕達はリーダーなのに信じない先生は悪いと思う。」ときっぱり言われてしまい、リーダーとしての自覚がすっかり育ってきたのを感じ感激しました。用具の準備や片付けだけでなく、種目の紹介や準備体操の見本、スタートの合図、ゴールテープ、年中組や年少組のお手伝いなど、様々な仕事を考え、その中で自分がやりたい仕事を決めました。



「らんらんこにこらんらんどに向けて、子ども達のありのままの思い入れを保護者の方々に伝えたい!!」という思いが年長組の教員の間で大きくなり、急きよ『懇談会』を開きました。

今回のらんらんこにこらんらんどをどのように行うのかと、心配していた保護者も多かったと思いますが、保育者から直接子ども達の話が聞けたことで、安心と、当日への期待も膨らんだと思います。

今回のらんらんこにこらんらんどは、例年より短い時間の中で2種目行いました。2種目とはいえ、今まで以上に気持ちや意欲を大きく膨らませ、幼稚園のリーダーとして自信を持って運動会を進めていく年長児の姿がありました。

らんらんこにこらんらんど後、保護者の方から「今出来ることをみんなで知恵を出し合い、柔軟に対応し形に出来る子ども達。本当に素敵でした。色々な事がある今の世の中、この純粋な前を向く子ども達の姿が未来ですね。」と嬉しい言葉を頂きました。



「あれも無理」「これも出来ない」「去年の今頃は…」と、ついネガティブに考えてしまいがちです。しかし子ども達は「じゃこうしようよ」「こうするのはどう?」と柔軟に物事を考え、今を真剣に懸命に生きています。子ども達の言動に力もらい、いつも以上に学ぶことが多くありました。

コロナ禍は、教育現場に様々な影響や困難を与えましたが、同時に新たな可能性を生み出し、より良いあり方を発見するきっかけとなっています。



# コロナ禍における小学校の教育

小学校教頭 林 田 英一郎

## つながりと学びを 止めないために

二〇二〇年度の小学校の教育は、新型コロナウイルス感染症による学校休校措置の延長からスタートしました。学園小学校本来の子どもたち同士が様々な行事や体験の中でつながっていく学びのスタイルをどのようにして保障することができたのか……。新年度早々から大きな困難が立ちふさがってきました。

五月までの休校延長が決まり、オンライン授業に本格的に取り組むことになった小学校が授業の道具として選んだのはロイノートでした。分散登校が開始されるまでの期間、ロイノート・スクールをメインにしたオンライン授業が、そして五月からは朝の会を実施するためにzoomの活用も始まりました。

この間、保護者の皆様には様々なご協力をいただきました。休校期間中は、全国の学校でロイノート・スクールの活用が一



## 宿泊学習の実施をめぐる

気に進んだこともあって、接続に関するトラブルが少なからずありました。また、画面越しでの機器操作については保護者の皆様の支えなしにはできない学年もありました。そうした困難がありながらもオンライン学習を継続させていったのは、子どもたちのつながりと学びを保障していくためでした。休校期間中も各学年で様々な工夫を凝らした授業実践が展開されました。初めてのオンライン授業への挑戦ということもあって、授業準備やロイノート・スクールでの双方向のやりとりも含めて、各学年の取り組みは通常の授業よりもたっぷり時間をかけたものとなりました。そうした実践を通じて、私たちは実際に対面して学び合う大切さを改めて実感することとなりました。zoomでつないだ画面越しの子どもたちは、物理的な隔たりはあっても久しぶりに同じ時を過ごす喜びにあふれていて、私たちへの大きな励みとなりました。

昨年度末の一斉休校からの流れの中で、いち早く決断しなければならなかったのが三年生以上の宿泊学習です。本来なら五月中旬から六月中旬の間に実施する三・四・六年の宿泊学習ですが、休校措置が続く状況下での実施は困難であると考えました。しかし、各学年の総合学習



の中核に位置づく宿泊学習を軽々に中止とするわけにはいきません。そこで延期日程を模索することとなりました。

その結果、何とか九月初旬「四年山の学校（山梨）」、十月下旬「三年海の学校（油壺）」、十月末から十一月初旬「六年修学旅行（奈良・京都）」とスケジュールを組み直すことが出来ました。

次に課題となったのがコロナ禍での宿泊学習実現のための安全対策の検討でした。宿舎の一部屋あたりの人数をどうするか、集団での食事をどうするか、長時間のバス移動をどうするか、

そうした一つひとつの懸念に対処していったのは学年の教員です。旅行業者からのアドバイスを得ながら当該学年の教員が検討を重ね、保護者の皆さんに対しての説明会を開催していきま

した。中には、コロナ対策のために、企画を大きく変更せざるを得なかった学年もあります。六年は日程上、例年とは別の宿泊施設を選ばざるを得ませんでした。そうした学年教員の尽力の結果、途中リタイアの児童を一人も出すことなく、それぞれの宿泊学習を終えることが出来ました。今年度は小学校の宿泊

## 全校行事の開催へ

例年、多くの保護者の皆様に観覧いただいている全校行事「たいいく表現まつり」と「音楽会」の実施についても慎重な検討を加えていきました。その結果、「たいいく表現まつり」は種目数を減らしての午前中開催、保護者観覧についても人数制限をいたしました。日常の体育の授業そのものに制約がある中、例年と比べて十分な練習時間も確保できませんでしたが、子どもたちは本番の晴れの舞台で精一杯の舞いを披露することが出来ました。



「音楽会」は、常日頃より校内に歌声が広がる学園小学校にふさわしい、クラスや学年の合唱を披露する晴れの場でしたが、今年度は楽器発表の場といたしました。また、収容人数が多い鎌倉芸術館大ホールといえども参加者については制限しな

ければなりません。そのため、低・高学年の二部制にした上で、保護者観覧についても制限せざるを得ませんでした。

全校行事の中で何よりも残念だったのは、「交歓会」の中止と縦割り交流の大きな制限です。一年を通じてのなかよし班の活動、その中でも特に一年生と六年生の関わりをつくっていく機会が今年度は極端に少なくなっていました。新型コロナウイルスの感染リスクを極力抑えるためとはいえ、これだけ異学年交流が分断されてしまった年はありませんでした。

## そして二度目の緊急事態宣言発出

そして二〇二二年、年明け早々の二度目の緊急事態宣言発出のため、「五年雪の学校（新潟）」は中止とせざるを得ませんでした。二学期から感染症対策について万全を期した上で、子どもたちとともに準備を進めてきただけに残念でなりません。また、その後に控える行事についても少なからぬ影響を受けながら企画を進めていかざるを得ません。新型コロナウイルス感染症の完全な終息を迎えるには、まだまだ時間が必要なようです。子どもたちも、この一年間を経て、学びあうこと・関わり合うことの大切さを改めて実感していると思います。私たちもこの一年間を踏まえて、これからも子どもたちのつながりと学びを止めない教育実践を構想してまいります。



# 皆が集える学び舎の価値

中学校高等学校 校長 伊藤 眞哉

## ●学園教育の原点

昨年4月から中高の校長を務めている伊藤と申します。幼稚園・小学校の皆さまには、ごあいさつが年度末になってしまいましたことを心よりお詫び申し上げます。

私は1988年4月に湘南学園の国語科教員となりました。当時、中高の教員会議の場では学校行事の改編について熱い議論が交わされていました。それは「中高の6カ年を通して、生徒諸君にどんな体験をしてもらい、その体験を通してどんなことと向き合っているか」という学校全体としての教育目標の根幹について教員どうしが率直に話し合う場面であり、まだ右も左もわからない新人教員だった私も積極的に発言させていただきました。

当時の議論はその後「特別教育活動（通称「特活」）」として結実し、1990年度から実施されました。現在は「総合学習」と名称を変えていますが、「生徒諸君の発達段階に合わせて視野を少しずつ広げ、社会の諸問題を自分に引きつけて考えてもらえるようにしたい」という教育目標は30年前から変わらず、今や中高の進めるESDの大事な土台の一つになっています。

また、その議論の延長として「生徒主体の行事運営」にも目が向けられ、現在のようないま実行委員会形式による体育祭・学園祭・合唱コンクールが始まったのです。生徒の学びに対して、ベテランも新人もなく、お互いがお互いの考えをフランクに述べ合える学校。生徒の声を聞き、その声と真剣に向き合える学校。——新人時代に湘南学園ならではの教育づくりの原点に触れたことが、その後の私の教員としてのスタンスに多大な影響を与えたことは間違いありません。

## ●コロナ禍にあっても

2020年度は新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。入学式を翌日に控えた4月7日に最初の緊急事態宣言が発出され、最初は教科書すら手もとにない中で新年度の教育活動をスタートさせざるを得なかったのです。

6月の第1週まではインターネットを介したテレスタディを進め、その後段階的な学校再開



期間を経て、7月期からようやく通常どおりの学校生活を取り戻すことができました。その間も我々教員の中では様々な議論がありました。正解といえるものがない中で、先生方の意見も多岐にわたりました。生徒諸君の学びを前進させることが大切だと考える方もいれば、むやみに進めることが本場の学びの保障につながるのかと考える方もおり、互いの意見をストレートにぶつけあうような場面も数多くあったと記憶しています。でも、すべてが生徒の皆さんの学びが少しでも充実することを願うての議論です。32年前の特活をめぐる議論を思い出させるような熱い話し合いを続けながら、手さぐりで前に進んでいくような毎日でしたが、湘南学園ならではのスピリットは変わらず生きつづけていることを痛感させられた次第です。

## ●学園生のたくましさ

教員どうしの話し合いを続けながら、一方で生徒の代表として、高2の総務委員の皆さんと話し合う場面も持たせていただきました。「みんなが集まり協力し合ってこそ、意味のある生徒会活動が行える。たとえどんな困難が待ち受けていても、それらの課題

をうまく乗り越えながら、今年ならではの生徒会行事をつくりあげたい。」執行部の皆さんの考え方は非常に明確であり、目指すものもハッキリしていました。「よし、その場その場で対応策をしっかりと考えながら、できることを模索していこう。」私も生徒諸君の想いに励まされるように、全面的に協力させてもらうことを誓いました。



その後、9月に延期していた体育祭は10月に移行せざるを得なくなり、日程的な問題から高1・高2のみに限定した形で実施すること余儀なくされました。しかし、実行委員の皆さんは、さまざまな制約がある中で誠実に議論を重ね、学校側との協議会を何度もくり返しながら、実行可能な計画を練り上げ、実現してくれました。12月の学園祭も同様で、当初の実施案を大幅に見直しながら、登校人数を半分に減らした形での全校行事という難問に対して立派に答



えを出してくれました。何があっても自分たちの目指すものをゆるがせにせず、その場の状況にしながら対応しながら、持てる力を結集する……学園生のたくましさが見事に発揮されたすばらしい行事だったと思います。

## ●皆が集う学び舎として

いまこの原稿を書いている1月下旬。2度目の緊急事態宣言とその後の社会情勢のひっ迫を受けて、中高は緊急避難的なテレスタディに移行しています。しかし、皆が集うからこそお互いの気づきや共感が広がり、皆が集うからこそ創り出せる学びがあるのだということを、この1年を通して学園生みんなが実感したことと思います。いち早い終息を願う一方、これから先たとえどんな状況に立ち至っても、生徒の皆さんや先生方としっかりと話し合いながら、学園教育の目標を少しでも形にしていきたい。いま改めてそんな想いを強くしています。





## 2020年度 「松ぼっくり基金」のご報告

理事長 内海直彦  
学園長 山田明彦

人類を襲ったコロナ危機のもとで、日本も世界も幾多の困難に直面してきました。今年度は湘南学園も、長期休校と段階登校期間を経て、通常復帰後も感染予防対策を励行し、各校・園のスケジュールを修正実施するなど、異例の対応を続ける日々でした。

湘南学園は、学園教育の充実と経営の安定を推進し、独自の私学として教育の使命をはたすべく、一昨年の10月に「湘南学園松ぼっくり基金」を創設しました。しかし今年度は、厳しい情勢を踏まえて募金のご案内の発送を中止いたしました。それでも多数の方々から、別表の通り1月上旬までで合計約1200万円の御寄付を頂戴しております。

心からお礼を申し上げます。現在も予断を許さない状況ですが、湘南学園の持続可能な発展を支える基盤の充実のために、皆様のご支援について次年度早い時期に改めてご案内の発送をさせて頂く予定であります。

この基金では「使途指定寄付」の項目を設けており、「その他」ではご指定の使途を具体的に明記していただけます。ここまで特に中高部活動や学園小教育環境へのご支援が多く、「コロナ感染症対策」等のご指定も受けています。今年度は部活動などで早速有効に活用させていただきました。基金運営委員会を年間で定期開催し、使途ご指定の活用を推進してまいります。

基金の詳細につきましては、学校法人湘南学園のホームページでもご参照いただけます。募金方法では、通常の振込用紙を使用する「書面手続きまでのご寄付」に加えて「ウェブでのご寄付」や「定期的なご寄付」の設定もご用意しております。ご寄付をされた個人や団体について、所得税・住民税・法人税など広く税額控除の対象になる措置が設けられること



にもご留意いただけるとありがたいです。今後、創立100周年も視野に入れながら、周年行事の節目にとどまらず、永続的な基金の構築に向けて幅広い個人と団体の皆様からのご協力をいただけるよう、積極的な取り組みに努めてまいります。今後とも広範な皆様のご理解をいただき大きなご支援を賜りたく、何とぞよろしくお願い申し上げます。



### 松ぼっくり基金

2021.1.18

寄付金納入期間 2019/10/16～2021/1/10

#### 寄付金合計額

11,982,569 円

| 使 途 別           | 合 計 |            | 内、継続寄付 |         |
|-----------------|-----|------------|--------|---------|
|                 | 件数  | 金 額        | 件数     | 金 額     |
| 一般寄付金           | 123 | 3,378,841  | 2      | 10,000  |
| 学園高校生の海外留学支援    | 2   | 18,333     | 1      | 10,000  |
| 学園中高生の部活動支援     | 22  | 788,333    |        |         |
| 学園小学校の教育環境支援    | 29  | 1,235,062  | 8      | 175,000 |
| 学園幼稚園の教育環境支援    | 1   | 15,000     |        |         |
| 特別教職員採用・教職員研修支援 | 1   | 90,000     |        |         |
| その他             | 19  | 161,000    |        |         |
| 記入なし            | 25  | 1,296,000  |        |         |
| 教育振興寄付金より       | 1   | 5,000,000  |        |         |
| 合 計             | 223 | 11,982,569 | 11     | 195,000 |

※使途が複数の場合は、件数は記載順でカウント、寄付金については均等に分配

| 関 係 別      | 合 計  |             | 内、継続寄付 |           |
|------------|------|-------------|--------|-----------|
|            | 件数   | 金 額         | 件数     | 金 額       |
| 卒業生        | 112  | 2,473,000   | 8      | 45,000    |
| 在校生保護者     | 74   | 8,050,000   | 3      | 150,000   |
| （高等学校）     | (19) | (675,000)   |        |           |
| （中学校）      | (17) | (630,000)   |        |           |
| （小学校）      | (32) | (6,645,000) | (3)    | (150,000) |
| （幼稚園）      | (4)  | (85,000)    |        |           |
| （記入なし）     | (2)  | (15,000)    |        |           |
| 教職員        | 0    | 0           |        |           |
| 一般         | 3    | 30,000      |        |           |
| 企業・法人      | 1    | 1,000,000   |        |           |
| 団体等        | 2    | 187,569     |        |           |
| フラワーガーデン有志 | 16   | 116,000     |        |           |
| 記入なし       | 15   | 126,000     |        |           |
| 合 計        | 223  | 11,982,569  | 11     | 195,000   |

※関係が複数に渡る場合は、件数および金額は記載順でカウント

## ..... 学校法人から .....

### ●理事会報告

これまでに、次の理事会を開催しましたのでご報告いたします。

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 第1回定例理事会          | 4/18  |
| 第1回臨時理事会          | 5/8   |
| 第2回定例理事会          | 5/23  |
| 第2回臨時理事会          | 6/5   |
| 第3回定例理事会          | 6/20  |
| 第1回常任理事会・第3回臨時理事会 | 7/11  |
| 第4回定例理事会          | 7/18  |
| 第5回定例理事会          | 8/22  |
| 第4回臨時理事会          | 9/11  |
| 第6回定例理事会          | 9/26  |
| 第2回常任理事会          | 10/17 |
| 第7回定例理事会          | 10/24 |
| 第8回定例理事会          | 11/21 |
| 第3回常任理事会・第9回定例理事会 | 12/19 |
| 第10回定例理事会         | 1/23  |

### 主要な議題・報告等

- ・ 理事長の選任について
- ・ 副理事長1名の選任について
- ・ 監事の任期及び選任について
- ・ 教職員の変形労働時間制の解約と再協定に向けて
- ・ 2019(令和1)年度事業報告書の確定について
- ・ 2019(令和1)年度決算書の確定について
- ・ 学園が保有する那須の土地の現状について
- ・ ワイルドフラワーガーデンの整備について
- ・ 2021年度予算編成方針(案)について
- ・ 契約電力会社の選定について
- ・ 緊急事態宣言下の各パートの教育実施について

### ●評議員会報告

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

|         |       |
|---------|-------|
| 第1回評議員会 | 4/15  |
| 第2回評議員会 | 5/23  |
| 第3回評議員会 | 7/18  |
| 第4回評議員会 | 10/24 |

### 主要な諮問事項等

- ・ 理事の選任について
- ・ 監事の選任について
- ・ 2019(令和1)年度事業報告書(案)について
- ・ 2019(令和1)年度決算書(案)について
- ・ ラボ・学園協議会の進捗状況のご報告
- ・ 学園が所有する那須の土地の現状について

## ..... 学園所有地の売却につきまして .....

学園では昭和46年に那須ハイランド別荘地内(栃木県那須町)の土地を購入し現在まで保有し続けてまいりました。総面積は四区画で約3968平米となりますが、学園として有効に活用してきた実績がなく、今般売却の意思を学校法人としまして決定しました。

つきましては、学園関係者の皆様に広くご案内し、有効に活用いただける方に購入いただけることを望んでおります。

ご意思のある方は、法人事務局清水までご連絡を頂きたいお願いいたします。  
連絡先は、0466-23-6611(代表番号)です。

## ..... 事務局からのご連絡 .....

### ●住所変更のお手続きについて

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

### ●登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車での送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校(園)にご連絡くださいますようお願い申し上げます。